

会社は社会を変えられる

6社の事例から見るCSRのこれから

第81回東京財団フォーラム



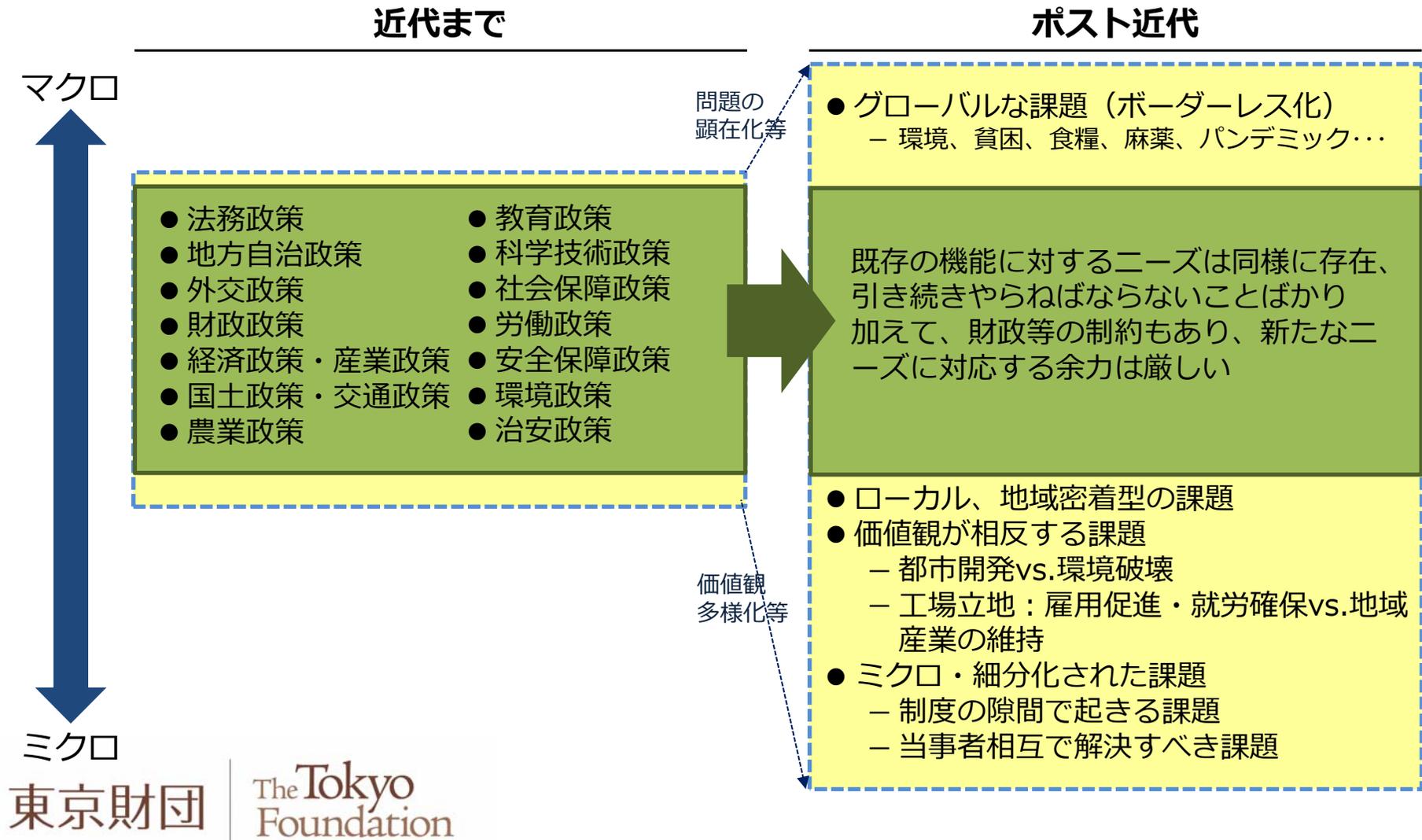
東京財団

The Tokyo
Foundation

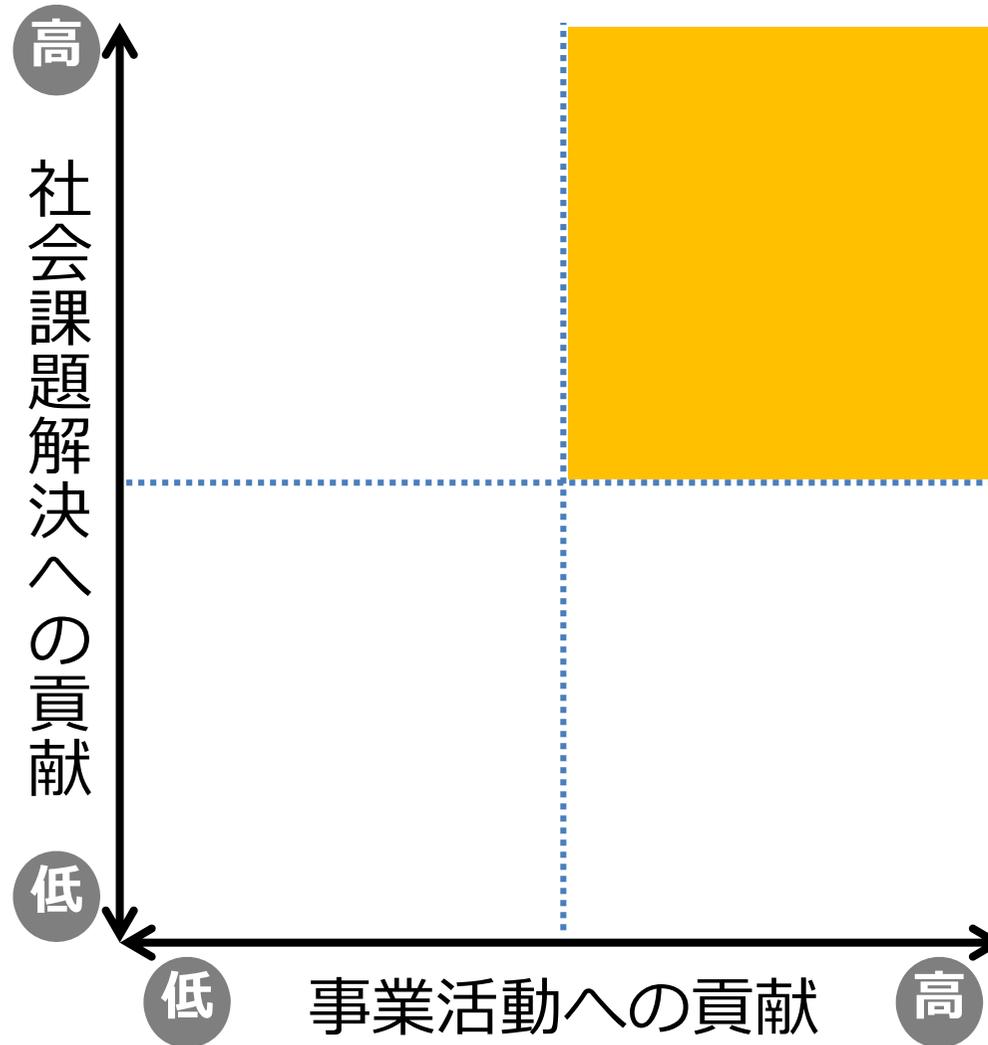
政策をつくる・人を育てる・社会を変える

社会課題解決を企業が担う時代に

行政の守備範囲の“相対的”縮小（行政機能と社会課題の広がり：概念図）



社会課題解決と事業活動の「統合」が重要

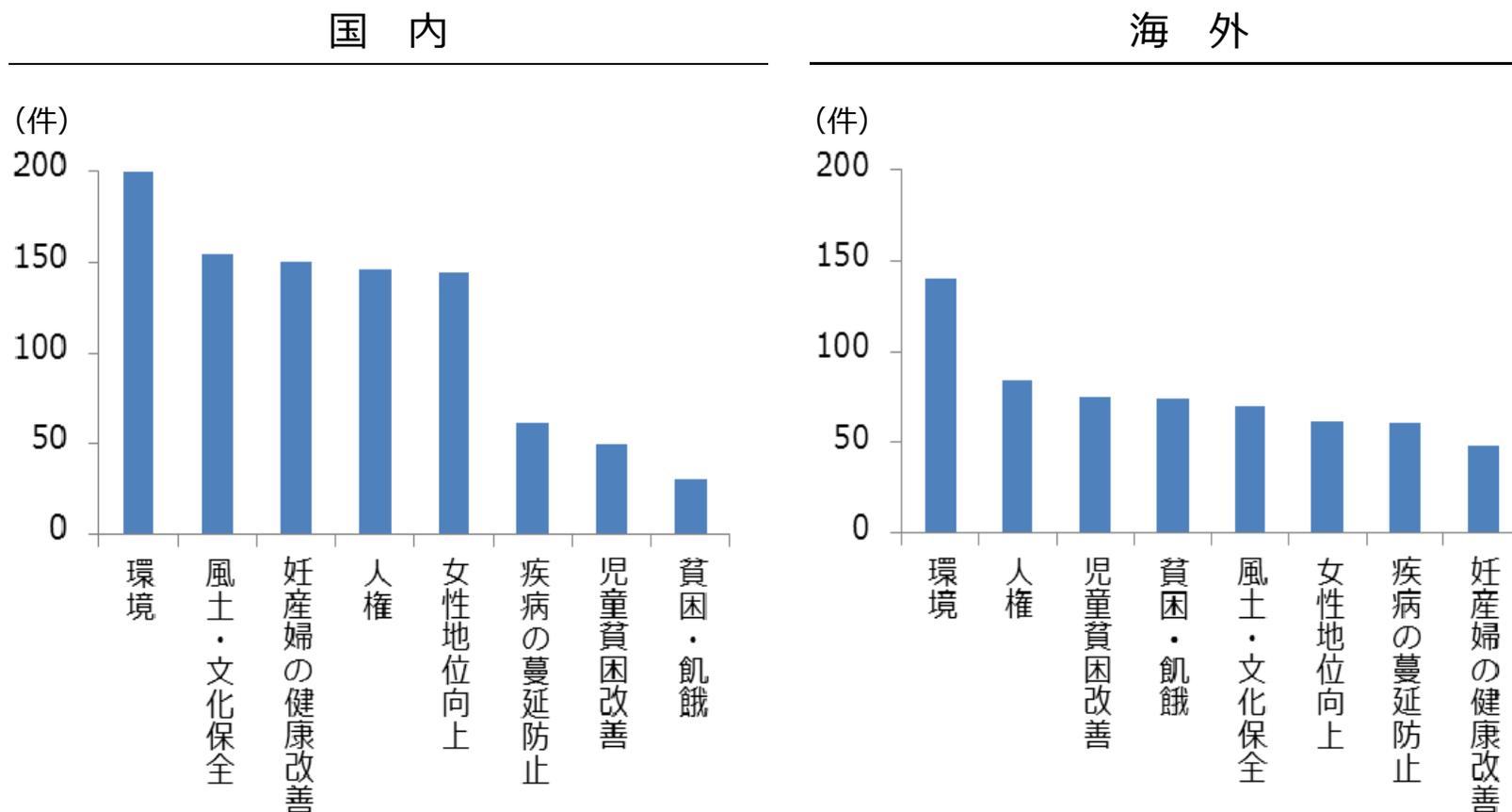


CSR企業調査から見えてきたポイントは5つ

- 1 「環境」「人権」「女性の地位向上」は国内で盛んだが「貧困」は少ない。海外では「環境」が先行。
- 2 「環境」は事業活動と統合、「人権」「女性」は社内向けが大半。
- 3 課題解決と事業活動の「統合」をめざすも、実態はまだまだ。
- 4 「何をするか」の検討プロセスよりも「実行」に重きをおく傾向。
- 5 CSR専任部署の意義は大きい。

「環境」「人権」「女性の地位向上」は国内で盛んだが「貧困」は少ない。海外では「環境」が先行。

社会課題別に見たCSRの取り組み状況*



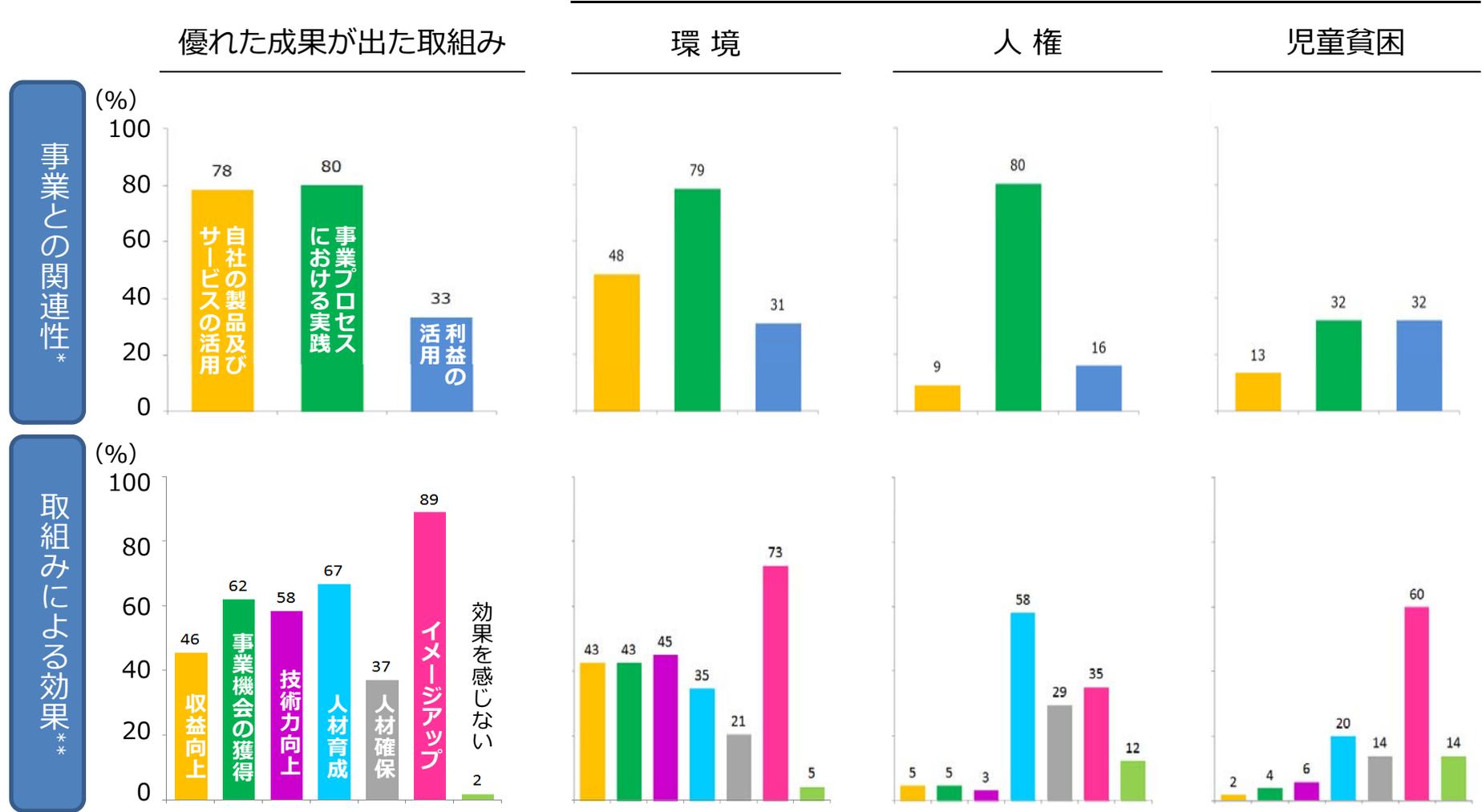
* 「以下の社会課題分野それぞれについて、貴社が解決のための具体的な実践に取り組んでいるのはどの分野ですか」との問いに対し、「課題解決のため、独自プログラム、寄付、役職員の参加等、企業としての具体的な取り組みがある」と答えた数。

出所： CSR企業調査 (n=218) より東京財団作成

社会課題解決と事業活動の“統合”を目指すも実態はまだまだ

CSRの「建て前」と「実態」

個別の社会課題に対する取組み（国内）



* 「この取組みは貴社の事業とどのような関連性を持っていますか（複数選択可）」に対する回答。
 ** 「その取組みはどのような『貴社ならではの“強み”』を向上させましたか（複数選択可）」に対する回答。
 ※ 優れた成果が出た取組みとは回答企業が選んだ「3つの優れた取組み」のこと。
 出所：CSR企業調査（n=218）より東京財団作成

「何をするか」の検討プロセスよりも実行に重きを置く傾向

4

社会課題別CSRのプロセス（検討→実行）比較

	検討* > 実行**			検討* ≒ 実行**			検討* < 実行**		
	課題	検討	実行	課題	検討	実行	課題	検討	実行
国内	該当なし			女性	149	144	貧困	20	31
				妊産婦	154	150	児童貧困	36	50
				その他	133	132	文化/風土	129	154
				環境	193	200	人権	132	146
				疾病予防	57	62			
海外	該当なし			女性	63	62	貧困	59	74
				その他	79	78	妊産婦	38	48
				人権	81	84	文化/風土	58	70
				環境	134	140	児童貧困	64	75
							疾病予防	52	61

* 「貴社は、以下のそれぞれの社会課題分野（国内・海外9つずつ）の解決について、現在、どの程度の関心を有していますか」との問いに対し、「当該テーマの解決について複数回以上会議を持ち、具体的に検討を重ねている」と答えた数（単位：社）。

尚、その他の選択肢は「テーマとしては承知しているが、具体的な検討は行っていない」及び「まったく検討していない」

** 「社会課題分野それぞれについて、貴社が解決のための具体的な実践に取り組んでいるのはどの分野ですか」との問いに対し、「課題解決のため、独自プログラム、寄付、役職員の参加等、企業としての具体的な取組みがある」と答えた数（単位：社）。

※ 「検討≒実行」とは検討と実行の差が検討から実行への変化率がプラスマイナス10%以内（ほとんど変わらない）のもの。

赤字は検討<実行となっているもの。

「国内」とは国内における社会課題に関するもの、「海外」とは海外における社会課題に関するもの。

出所： CSR企業調査（n=218）より東京財団作成